

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
34000	X-21-B-2-340001						
授業科目	担当教員						
日本語学	佐々木 香織	2	前期	【1年次生】国際学部国際文化学科 【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース 【2年次生以上】国際学部国際文化学科 【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1年次生】経営情報学部経営学科 【1年次生】経営情報学部情報システム学科 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース 【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 専門 × × × ×	選択 選択 選択 選択 × × × ×	1年 1年 1年 1年 × × × ×

授業目的

国際社会で必要な知識を身に付けます。

様々な資料を利用して、日本語に対する内省力、分析力を高め、日本語自体と、日本語が使われているこの社会の関係を見つめ直す作業を通じ、日本語に対する自分なりの考え方を持つことが最大の目的です。また、読み、書き、話し、聞くという日本語の4技能の向上も目的とします。したがって毎回のコメントカードに記入されている内容も期末テストと同様、評価の対象になります。また、授業中、発言を求めることが頻繁にあります。

各回毎の授業内容

第1回

【授】1. 日本語のプロフィール：日本語はどんな言語か、「日本語」を学ぶ意味は何か、考える。
【前・後】事前に必ずシラバスを読んでから来てください。

第2回

【授】2. 日本語の多様性：地理的、歴史的位置相について考える。
【前・後】自分と異なる話し方をする親戚や、よその地域から来た友人などのことばづかいいろいろ思い出してください。

第3回

【授】3. 「標準語」、「共通語」、「方言」とはにか。「新潟弁」の特徴について考える。
【前・後】安田敏朗『く國語』とく方言のあいだ『言語構築の政治学』を読んでおくといい。(事前でも事後でも)

第4回

【授】4. 「言葉の正しさ」と「日本語力」について考える。
【前・後】あべやすし『ことばのバリアフリー』、打浪文子【著】『知的障害のある人たちと「ことば」』、かどやひでのり他編『識字の社会言語学』(生活書院)などを授業の前でも後でも読んでみてください。

第5回

【授】5. 日本語の歴史的変化1：万葉仮名の世界 万葉仮名の解説に挑戦する。
【前・後】橋本進吉『古代国語の音韻に就いて』を事前に読んでおくといい。

第6回

【授】6. 日本語の歴史的変化2：平安、鎌倉期の日本語について考える。
【前・後】事前に、「百人一首」をたくさん思い出し、高校の古典文法を復習しておくといい。

第7回

【授】7. 日本語の歴史的変化3：室町時代の日本語について、能・狂言の鑑賞を通して考える。
【前・後】鑑賞する演目のあらすじ等を読む。(第6回目に何を見るか説明する)

第8回

【授】8. 日本語の歴史的変化4：「南蛮人」の見た日本語。ポルトガル式ローマ字で書かれた日本語を解説する。

【前・後】事前に「キリストian版」の著作物について、調べておく。(ネットでも、辞書でも可)

第9回

【授】9. 日本語の歴史的変化5：日本語の近代化。江戸時代の日本語(主に浮世風呂)を読む。時間があれば歌舞伎を見る。

【前・後】鑑賞する演目のあらすじ等を読む。(第7回の能の鑑賞で見たものと同じ題材のものを見る予定)

第10回

【授】10. 現代日本語の音声

【前・後】言語学を履修したことのある人は、音声学、音韻論について思い出しておくとよい。

第11回

【授】11. 現代日本語のアクセント・イントネーション

【前・後】県外の親戚や地元出身者以外の友人と話して、その音の感じを自分のそれと比べてみよう。

第12回

【授】12. 現代日本語の語彙

【前・後】事前に <http://www1.odn.ne.jp/drinkcat/quiz/index.html> (100語) で自分の語彙量を推定しておこう。

第13回

【授】13. 現代日本語の文法1 多様な文法とその役割を考えよう。

【前・後】中学校でならった国語文法を思い出しておこう。

第14回

【授】14. 現代日本語の文法2 「なぜ」を説明できるようになろう。

【前・後】外国語を使うときどんな文法的なミスをするか、振り返ってみよう。

第15回

【授】15. 日本語と社会・世界 同化圧力と「異化」作用の狭間で、どういう可能性があるかを考える。

【前・後】これまでの講義をふり返って、必要であれば質問できるように準備しておいてください。

第16回

【授】テスト(記述式。提示された資料について授業で学んだことを踏まえた上で自分独自の考察をわかりやすく説明できたかどうかで評価。暗記ものではない)

【前・後】返却希望者にのみ、コピーを返却。(人数によっては時間がかかります。成績入力になります。)

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験	15	20	15		10		60
小テスト・授業内レポート							20
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							20
成果発表(口頭・実技)							
演習							
その他							

毎回のコメントカードが、上記の小テスト及び授業態度の評価対象になると想えてください。予習復習は各自の興味関心によって適宜行ってください。

教科書参考書

授業中に別途指示しますが、いずれも強制ではありません。一読をお勧めする参考文献は以下の通りです。『日本語(上・下)』金田一春彦(岩波新書〈赤表紙〉)、『標準語の成立事情』真田真治(PHP文庫)、『国語元年』井上ひさし(新潮社)、『日本語ウォッキング』井上史雄(岩波新書〈赤表紙〉)、『日本語は年速1キロで動く』井上史雄(講談社現代新書)、『日本語の歴史』山口仲美(岩波新書〈赤表紙〉)。『多民族化社会・日本』渡戸一郎他編著(明石書店)『識字の社会言語学』かどやひでのり他編(生活書院)、打浪文子【著】『知的障害のある人たちと「ことば」』(生活書院)、有田佳代子他『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(研究社)、あべやすし『ことばのバリアフリー』(生活書院)

受講に当たっての留意事項

言語学を履修していることが望ましいです。グループで作業・討論することがあるかもしれません。初対面の人との協同作業や会話ができるない方の受講は厳しいと思われます。また、受講マナーの悪い人が近くにいたら、学生同士で注意しましょう。教師を含め周りの人に頼らず、自分の学習環境は自分で良好に保つことも能力の一つです。大学の授業は、1回につき予習復習などの時間が4時間程度していると考えて単位が出るのだろう。ご注意ください。

学習到達目標

日本語について、どのような言語であるか自分なりの説明ができる、社会における日本語の役割、課題が見いだせるようになること。また言語コミュニケーションを通じて、より良い社会を築くための方途をさぐっていけるようになること。

JABEE

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習